

(様式第 号)

行政視察報告書

平成 29年 1月 19日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員 奥田 和夫
久保 東

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成29年1月18日(水)

2. 調査項目

京都 立命館大学国際平和ミュージアムにおける平和展示のあり方
(施設見学)
立命館大学国際大学平和ミュージアム名誉館長 安斎育郎氏
(学習懇談)

3. 参加議員

奥田 和夫, 久保 東

4. 随行者

なし

京都 立命館大学国際平和ミュージアム

■調査項目

・調査期日

平成29年1月18日(水) 11時00分～12時30分 施設見学
14時00分～15時30分 学習懇談

・市の概要

人口: 1,474,344人 世帯数: 712,074世帯

・調査目的

今回の視察は、立命館大学国際平和ミュージアムにおける平和に関する展示のあり方や施設方針などを学び、今後の大和ミュージアムにおける平和展示の充実に向け、参考にすることを目的とする。

・調査内容

【施設見学と安齋名誉館長との意見交換】

・ミュージアムは地下1階、1階、2階からできており、それぞれがテーマを持った作りとなっている。地下1階は、日本の「15年戦争」と「第2次世界大戦以降の戦争と平和」を中心に実物や動画、また手紙や写真などが数多く展示されている。戦争の実態を通して国民一人ひとりの生活に視点を当てることを中心に、平和な世界のために何をしなければならぬのかを考えるフロアーになっている。特筆すべきは被害者であると同時に加害者としての責任に向かい合っている点である。この反省に基づく展示が、戦争はもちろん、偏見・差別・暴力すべてを否定する内容展示には、次世代への大きなメッセージとなっている。1階部分は平和問題について学習・調査を行うフロアー。2階部分は人間の能力開花や発達を妨げる要因である「暴力」を取り除くための市民の活動の紹介や戦没画学生の遺作や遺品の展示などもされており、静かに平和について考えるフロアー。全てのフロアーに一貫したメッセージは、自己反省に基づく、非暴力・平和と命の尊さであり、大和ミュージアムにおける展示においても大いに参考にすべき事例であると感じた。

・安齋名誉館長からは、立命館大学国際平和ミュージアムにおいて「戦争がなければ平和でしょうか？」という問いかけが掲げられており、飢餓や貧困や環境破壊なども問題も取り上げている事や歴史と向き合い、その歴史の中で戦争を許してしまった自分たちの弱さを白状している点（反省の視点）は、ミュージアムの展示内容を含め、ミュージアムのあり方そのものが決定的に違ってくると言えると指摘を受ける。また、大和ミュージアムにおける産業発達の視点だけでは、大和の存在を肯定的に捉えることで終わってしまう危険性があるのではないかの指摘も受けた。また、大和ミュージアムのリニューアルにあたっては市民も声をあげの中で、展示されていない内容、特に過去と誠実に向き合う内容を反映さす姿勢こそが大切であると指摘された。

【呉市での展開の可能性】

・大和ミュージアムを訪れた韓国の方が「日本は敗戦への反省はあっても、侵略への反省はない」というSNSで指摘をされていることを知り、その指摘に私たち呉市民はどのように答えるべきか考えさせられる。立命館大学国際平和ミュージアムでの展示における基本姿勢として、戦争責任を明確にし、加害と被害の実像に迫り、私たち一人ひとりがいかに同じ過ちを繰り返さないための強いメッセージを、展示物や説明において発していくことが求められるひとつの方向性ではないか。